

# 第 17 期うきたむ学講座運営委員会次第

令和 7 年 11 月 16 日  
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

1. 開会のあいさつ(考古資料館館長)
2. 運営委員長あいさつ(吉田委員長)
3. 確 認
  - (1)うきたむ学講座実行委員会規約の確認
  - (2)うきたむ学講座実行委員名簿の確認
  - (3)その他
4. 協 議
  - (1)第 17 期うきたむ学講座について
    - ①第 17 期うきたむ学講座実施計画(案)
    - ②第 17 期うきたむ学講座予算(案)
    - ③運営委員の就任依頼について
  - (2)その他  
総括実行委員会の日程について
5. 閉会のあいさつ

## 運営委員会

委員長 吉田 歆(○)・副委員長 岩崎義信(○)・高梨善三郎(×)  
委 員 菊地政信(?)・角屋由美子(?)・佐藤庄一(死去)・島津憲一(県外転居)・小林貴宏(?)  
・島崎正弘(死去)・秦昭繁(○)  
渋谷孝雄(事務局)

10 名中3名出席予定



# うきたむ学講座実行委員会規約

## [趣旨]

第1条 置賜地方の歴史解明および歴史理解の普及を広い視野から幅広く推進するため、置賜地方の歴史等関係者および団体が相集い研修し合うことを目的とする。

## [名称]

第2条 この会の名称を「うきたむ学講座実行委員会」と称する。

## [組織]

第3条 趣旨に賛同し、講座を支える意思を有する実行委員で組織する。

## [活動]

第4条 趣旨を達成するための「うきたむ学講座」を山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館と共に共催し、かつ必要な活動を行う。

## [実行委員]

第5条 実行委員は、本会の活動を代表者を通じて運営するとともに、会の活動に参加し、一般市民の参加を呼びかける。

## [役員]

第6条 本会に次の役員をおく。

- (1) 実行委員長 1名
- (2) 副実行委員長 2名
- (3) 運営委員 若干名
- (4) 事務局員 若干名

## [機関]

第7条 本会の運営のため、次の機関を置く。

- (1) 実行委員会(全体会) 定例会を年1回開き、方針および活動計画を決定する。
- (2) 運営委員会(役員会) 正副実行委員長・運営委員・事務局員をもって構成し、実行委員会で定められた事項に基づき会の運営を行う。
- (3) 事務局会 正副実行委員長の指示に基づき実行委員会および役員会に関する事務等の協議を行う。

## [会計]

第8条 本会の会計は、うきたむ学講座受講費その他の収入をもって充てる。受講費は当分の間 600 円とする。

## [事務局]

第9条 本会の事務局は、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館に置く。

## 第 16 期うきたむ学講座総括実行委員会開催の結果報告

令和 6 年 12 月 15 日に開催した上記会議では運営委員会で決定した「会議資料」に基づき、委員長及び事務局からの開催案の説明がなされ、明確な誤りなど一部を訂正した上で承認されました。今後は、講師の先生と連絡を取り「演題」、肩書きを確認した上で、1 月上旬にチラシを作成し、各方面に配布することで了解が得られた。

### 17 期以降の会の持ち方

- 1 年 2 回の開催については次年度も続ける。
- 2 出席した委員の方からは次年度以降のテーマや演題について次の様な意見が出された
  - 1) 山形大学の阿部宇洋氏が草木塔についての再考を促す発言をされている。この辺のお話を聞きたい。
  - 2) 米沢市では山城の赤色立体図を作成しており、その成果も出始め、新たな城館も見つかっている。この方法と成果の見通しについての話もいいのではないか。
  - 3) 近世陶磁の特に「戸長里」の窯と製品について新たな視点、成果が出ている。これについて話してもいい。
  - 4) 最近の考古学的な調査で米沢市館山城、南陽市南森遺跡、南陽市北町遺跡で成果が上がっている。これらのお話もしもいいのではないか。
  - 5) 城館といえば米沢市在住の「まー p さん」こと櫻井真さんもいい仕事をなされている。声をかけて、来年度以降の講師や実行委員に就任していただくことを考えたらいいのでは。
  - 6) コロナ前の講座では鉱山を取り上げるとかつての仕事仲間の方々の参加が多くなり、これまでの講座とは違った賑わいがあった。五十公野裕也氏にかつて高畠町周辺の鉱山についてお話ししていただいたが、置賜の各市町の鉱山についてお話ししていただければ数年は埋められるのではないか。現在の所属・連絡先がどうなっているか不明だが、声掛けをしていただけないか。
  - 7) 昆虫の「横倉明」氏、鳥類写真家の「真木広造」氏のお話も面白そう。内水面水産研究所の方のお話も面白そう。
  - 8) 自然と人文係わりについて、「自然利用」とも言えるかもしれないが、その辺のお話もしもいいのではないか。

### 実行委員について

これまでの実行委員の方に開催案内を出しているが、出欠の返信がない方も少なくない。2 年以上返信がない方、講座への出席のない方には、今後案内を出さないということでおいいか。→それでいい。

## 第17期うきたむ学講座予算(案)

2025. 11. 16

	費　目	予算額	16期決算額	摘要
収入	負担金	48,000	40,093	考古資料館自主事業委員会
	受講料収入	30,000	25,200	⑥600×50名
	資料頒布	400	0	
	計	78,400	65,293	
支出	謝金	48,000	48,000	講師謝金4名分(2回開催)
	旅費	11,700	8,243	講師交通費
	賃借料	7,500	6,300	施設使用料(⑥150×50名)
	通信運搬費	3,000	2,750	切手・クリックポスト等
	消耗品費	7,200		
	計	77,400	65,293	

### \* 内訳

①講師謝金 @ 12,000 円 × 4 人 = 48,000 円

②講師交通費 3,000円+3,200円+4,500円+1,000円 = 11,700 円

交通費支給基準(実際は発地・着地間の距離×2×37円で計算)

天童……………講師4,500円

山形・上山……………講師3,200円

長井・白鷹・小国……………講師3,000円

米沢・川西……………講師2,000円

南陽・高畠……………講師1,000円

(運営委員・実行委員については平成23年5月↓4目総括実行委員会の決議により支給しない事となっている)

③資料代 受講しないで資料のみの場合: 資料代を講師1名分200円とする

## 第17期うきたむ学講座総括実行委員会開催のご案内

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、標記の委員会を下記の日程で開催致しますのでご案内致します。

令和7年11月30日

うきたむ学講座実行委員長 吉田 歆

### 記

1、日 時 令和7年12月14日（日）午前10時より

2、場 所 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

3、内 容 第17期うきたむ学講座について

11月16日(日)に運営委員会を開催し、17期となる「うきたむ学講座」の実施計画や、予算案について協議しました。

その結果、総括実行委員会に提案する実施計画をつぎのとおりとすることを決定しました。

令和7年度の講座開催期日を令和8年2月1日(日)、と3月1日(日)の2回とする。

講座1回目のテーマを「 」とし①「 」(講師: 氏)②「 」(講師: 氏)の2つの講義をお聞きする。

講座2回目のテーマを「 」とし①「 」(講師: 氏)②「 」(講師: 氏)の2つの講義をお聞きする。

受講料と負担金(うきたむ風土記の丘考古資料館自主事業委員会)で講座を運営する。

総括実行委員会では以上の件について協議していただきます。また、次年度以降の講座の持ち方についてご意見を頂きたいと考えています。

ご出席・ご欠席の別を12月13日（金）までFAXまたはe-mailで返信願います。

e-mailアドレス [ukitamugaku@ukitamu.pupu.jp](mailto:ukitamugaku@ukitamu.pupu.jp)